

私の暮らし会議「アイディア」 R7. 5. 28

1事例	2事例
・地域や市のイベントに参加して楽しみを見つけ、人とのつながりを作る。 ・今していることが継続できるように関わる。 ・体調をみながら、時間を掛けてどんな事が出来るか検討していったらいいと思う。 ・市民センターでの教室や行事(体操やお出掛け、パソコン教室等)の情報提供等の支援。 ・就労については就労移行支援などのサービスがあるので、それを活用していくのがいいと思う。 ・具体的にどんな仕事があるのか可能性のある就職先について情報提供し、選択してもらう。それを目標に支援を行う。 ・地域活動が多い地区とのことで、地域活動のチラシなど、パソコンを使用し作成するなど、地域との関わりを持ちながら、さらに学んだパソコン技術を実践する事で自信をつけ、今後の就労への自信につなげる。 ・老人クラブ以下の年齢で年代別の講座やボランティア活動 ・パソコンなどが得意であればe-スポーツとか動画の投稿とかできる仲間をインスタグラム等でつながることを考えてはどうだろうか。 ・Eテレで"世界こんなところにYou Tuber!"という番組があるので夢を叶えている世界の人の動画を見ると元気が出る。 ・パソコン作業に興味があるとのことでしたが、いろいろな事にチャレンジしてみて興味の幅を広げてみるのも良いかと思う。 ・実際にA型で就労している方が面接時に「自身が出来ること」「出来ないこと」「工夫すれば出来ること」など自身をどれだけ理解しているかの質問があったようである。企業としてもそこが気になると思うので、これらと向き合ってみても良いかと思う。	・薬剤中止中、リウマチの既往があることから転倒に注意する。歩行状況の確認を行い必要に応じて歩行補助具の使用を促していく。 ・通所型サービスC終了後のモニタリングやフォローアップ制度の活用等を通しての継続的な付き合い、関係性を続けていく。 ・持病(既往歴)があるので、身体に負担が掛からないように、その時に出来る事を提案出来ればと思う。 ・今後、ADLの低下もあると思うので、娘さんに介護負担が掛からないように出来ればと思う。 ・歩行障害が表出した時、歩行補助具の提案を行う。その他手すりの設置など、状態に応じた住環境の整備。 ・外出の際の付き添い(演奏会など) ・進行性の病気がありながらも意欲があるので、同じ病気の人と交流の場があったりするといいと思う。 ・まちなか保健室が6月以降、駅近くのできるのでフラッと参加してみるのもいいかと思う。"話を聞いてもらう"のがいいかもしれない。 ・パーキンソン病の患者様と向き合うことが多いですが、病状理解が行えず「自分にかぎってそんなことは！」と思っていらっしゃる方が多い印象により苦労することは多々ある。道具に頼ることは悪いことなど間違った認識を持たれている方もいるため、闇雲に勤めるのではなく、必要性を十分説明することは大事だと思う。

私の暮らし会議「アイディア」 R7. 4. 23

1事例	2事例
・地域の子供達と手作りのおもちゃ作りなどの交流を定期的に開催。妻のこと以外での役割や生きがい作り。 ・奥様を守りたいご主人のお気持ちと、ご主人のことを認めて一緒に生活をしたいという奥様のお気持ち両方を大事にしたいと思う事例だった。奥様がご主人とどう過ごされたいのかというお気持ちを更にお聞きして、奥様のお気持ちをご主人にお伝えしたら、奥様のためならというところで食事のことやご主人自身の社会参加のことなど考えてくださるのではないかと考えた。すでに開催されているかもしれませんが、出前健康教室を開催して、地域の小グループに対してその小グループが興味を持っていそうな健康情報や病気にまつわる情報をお伝えすることで、ご自身の健康状態について意識していただく機会になるのではないかと思う。1事例目のご主人が、健康教室で自分が奥様を守るためには自分の健康も大事なんだと思っていただく機会になるのではないかと思う。 ・本人さんの大切にしている思い出や妻のことを理解し、ケアマネさんが関わっているのが本当に素敵に感じた。夜間の転倒リスクをふまえて安全な動線確保を取り入れると良いのではないかと思う。食事摂取量や食事内容に関して、まずは現状把握とアセスメント、評価が必要だと思う。低栄養やリスクはあると思うので体重管理、冷凍庫に残った食材チェックなども評価の視点になると思う。 ・コーディネーターさんがおっしゃった意見(見晴らしがよい場所、お花とか庭を活用して地域の方に集まってもらう)が良かった。 ・保育園まで散歩し、園児と交流。もしくは園児が本人宅に来て交流。世代間交流の場を作る。 ・手すりや踏み台を手作りされているとのこと、小学生の遠足で竹とんぼ作り体験などができる場所へ、先生として参加する等の役割が持てれば自信につながるように感じた。 ・運転免許を返納されて、生活の質が狭まってこられているようだった。生活支援の為、軽四の市からの提供が始まったが、運転手の確保が必要とのこと。もっと手軽に足になれるものの提供が欲しいと思う。 ・自宅にいても他者の協力を得て、外部と繋げられるような間接的なボランティア活動があれば良いと感じた。外出が難しい山間部に住んでいても、自身の得意なことや強みを活かして活動できる取り組みが必要だと感じた。 ・地域福祉コーディネーターさんの、そこ地域の人らしい、その場の風景を楽しむアイデアが素敵だと思った。自然と「チームオレンジ」の活動につながりそうな活動アイデアであった。風景写真の撮影、サロンのたびの記念写真・集合写真もご本人さんの楽しみになるのでは。 ・息子が帰省するたびに面親の暮らしぶりに不安を抱えている。本人は息子が帰省することが有難いが申し訳なく思っている。 →室内カメラを設置し遠方からでも両親の様子がわかるようにする。 ・地域福祉コーディネーターが訪問されている方だったので分かりやすかった。 ・ご本人のニーズ(希望や困りごと)が何かを明らかにすることが大切だと感じた。ニーズが行動する動機づけになると思う。 ・外出や他者交流がニーズなら、通いの場と協力して写真展をさせてもらい、その写真を見に行くという理由でその通いの場に誘ってみる。(きっかけづくり) ・本人の興味・関心チェックシートの情報から、「老人クラブ」に入会して、地区にある同クラブの福祉農園で畑仕事をして、他会員と交流することもできるのではないかと考える。 ・食事のアドバイザー、妻と一緒にできることを行う。(食事作り・デイサービス・外出) ・膝の治療をした方がよいと思った。 ・交流の場へ参加できたらよい。 ・家の中の動線をしっかりとくる(物の整理)。一緒にやってみる。 ・地域の人とのつながりを持ってもらう。(老人クラブへの参加)。 ・おでかけふくちゃんGO！の利用。(地域で買い物、月に1・2回決める) ・頻尿に対応する薬の服用は？ ・家事をすること自体が生活リハビリになっているので、今後も継続していくことが本人の望む暮らしにつながっているのかなと思う。 ・認知症カフェ等、夫婦で一緒に行ける場を活用する。 ・100歳体操等の通いの場への参加に結び付ける為、夫婦2人で徒歩で行く練習から始める。 ・出前で行くサロンができればよいと思う。まずは専門職＋近所の人を誘ってやってみる。 ・近所の人との交流の場を持つ。(集まってお茶をするなど)	・同居前は家事全般をされていたが、現在は長女がしているとの情報であった。家事をしなくなった理由が、目眩や意欲低下が原因なのか、家族の過助が原因かは分からないが、本人も運動することは必要と思われるようなので、同居先でも本人の役割として、簡単な家事から少しずつ参加してもらい活動量を増やせればと思う。 ・地域で野菜作り。 ・デイサービスの引き継ぎとしていけるようなサロンが色々種類があれば、身についた運動習慣を継続できる場になるのではないかと思う。会議の中で、これから地区に新たにサロンが始まるということだったので、これから多くの方が集まっていけばと思った。 ・『サービスCの事業所が利用受け入れ中止のため』と記載されていたが、理由を聞いてみたかった。また他の地域の事業所でも同様に受け入れ中止されている箇所があるのか。今後ますます重要視されてくるであろう総合事業について少し気になった。 ・自宅に帰った時に交流のあった人たちのところを訪ねる。 ・本人は米作りの指導者としての役割を持ち、第三者に米作りをしてもらう。役割の転換を行うのはどうか。 ・ご夫婦の関係性が良好だったり、過去ともにしていた趣味活動があれば、認知症の奥様と一緒にできる(再開できる)活動に取り組んでは？好きな活動は、奥様の進行予防・ご本人の役割意識にもつながるのではないかと。 ・プランターで育てるトマト、茄子など、自宅近くで気軽に始めることのできる野菜から育てて、自分の役割を持つと、めまいに対する不安も少し改善し、外に出る機会が増えるのではないかと考える。 ・畑を作りたい方に向けた、畑の貸し出し。 ・長女の自宅の場所、暮らしぶりが分かればよかった。 ・百歳体操への協力、応援したい。 ・何か役割を作ってあげられたらと思った。 ・現在利用しているデイサービスのスタッフ(CW・セラピスト等)に動機づけの面談のノウハウを伝える。本人にスタッフが動機づけの面談を行うことにより、体を動かす習慣が身につく。 ・米作りの再開は現実的ではない。通所型サービス卒業後に田ではなく、畑で野菜作り(サツマイモや玉ねぎといった水づくり等の手があまりかからないもの)を自宅で月2回程度やる。 ・長女宅での過ごし方を工夫して何かやってみる(家庭菜園等)少しずつでOK。 ・長女宅の周りでのサロンなどの活用。 ・居住地を移られた先で、人間関係ができればよいと思った。 ・生きがい、やる気が起きるようなことを見つける。 ・役割を作ってあげる。 ・集いの場への参加。 ・米作りは過程が多く大変なので、家庭菜園から始めて、作物を育てる成功体験を重ねていくのが良いのではないかと。 ・知り合いが多い地域でもある為、長男と再度同居出来るようになればいいなと思った。 ・ベランダで家庭菜園をしてみる(米作りは現状難しそうなので・・・) ・近所の通いの場に参加してみる。 ・家庭菜園などから始めてみる。
・独居ではないが、コミュニケーション(会話)、地域での交流ができればよいと思う。 ・近くの公園の催し(体操・お茶会・ゲーム)、キッチンカーが来てお茶ができる。 ・認知症の方が気軽に行けるカフェやサロン、通いの場。 ・人との交流で認知症の進行を和らげる。(妻も自分のできることを増やしていく) ・夫婦が一緒に行ける場を増やしてあげる。 ・男性が集まれる場所があったらいい。(麻雀・碁・将棋) ・同居の方の生活状況がもっと分かればよいと思った。 ・その人が望む(その人に合った)地域の情報提供が少なかったような気がした。 ・ご近所との関わりを増やしていければ、通いの場などでの交流も増え、生活にハリが出てくると思う。 ・集いの場があればよい。 ・通いの場の必要性を感じた。 ・夫婦で地域の集まり(サロン・おしゃべり・体操など)へ参加。 ・ご近所の方の訪問。	